

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23660057

研究課題名(和文) やせ妊婦が適切な体重増加をするために 体型認識・心理および生活習慣からの分析

研究課題名(英文) Achieving proper weight gain by underweight pregnant women: Study from the perspective of body shape recognition, psychology, and lifestyle

研究代表者

小泉 仁子 (KOIZUMI, hitomi)

筑波大学・医学医療系・准教授

研究者番号：20292964

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：目的：「やせ型体型妊婦(以下、やせ妊婦とする)の体型認識・心理および生活習慣の実態を明らかにすること」と「妊娠中の適切な体重増加と妊婦の体型認識・心理および生活習慣との関連を明らかにすること」を目的とした。方法：4か所の調査施設において、研究協力が得られた妊娠期の女性を対象として体型認識、心理、生活習慣についての質問紙調査を行った。妊娠中体重増加量、新生児体重を追跡し、周産期アウトカムへの影響を分析した。

研究成果の概要(英文)：(Objectives)To elucidate the body shape recognition, psychology, and lifestyle of pregnant women with a lean pregnant women and to investigate the association of these 3 factors with proper weight gain during pregnancy. (Methods)A questionnaire survey on body shape recognition, psychology, and lifestyle was conducted with 300 pregnant women at 4 medical facilities. All women provided consent to participate in the study. Weight gain during pregnancy and birth weight of each woman's child were followed up to investigate factors affecting perinatal outcome.

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：やせ妊婦 妊娠中体重増加量 体型認識 心理・社会的要因 生活習慣

1. 研究開始当初の背景

近年、日本では、若年女性のやせ志向の高まりに伴い、やせ体格の妊婦（以下、やせ妊婦とする）の増加傾向が続いている。妊娠中の体重増加不足に影響を及ぼす要因として、食生活の乱れ、保健指導の影響、やせ志向、社会経済的地位が報告されている。しかし、これまでの妊婦の体重増加不足に関する研究は、特定のリスク要因との関連性の検討に止まり、複合的な分析がなされていない。

妊娠中の体重増加に関して、厚生労働省は2006年「妊産婦のための食生活指針」において妊婦の体重増加に関するガイドラインを策定し、妊娠期の十分な栄養摂取と妊婦の体格に応じた至適体重増加を推奨したが、未だ具体的な保健指導は十分ではない。妊婦の体重増加は、食生活をはじめとする生活習慣の結果といえるが、体型認識・心理とも関連があるので、複合的な分析が必要である。急増するやせ妊婦に対する適切な妊娠中体重増加のための検討は、低出生体重児出産の予防につながり、母子の健康増進に貢献できる。本研究により、妊婦の体型認識・心理および生活習慣と体重増加不足との関連が明らかになれば、従来の保健指導に加え、より具体的なアプローチが可能になる。

2. 研究の目的

- (1) 本研究は、「やせ体型」妊婦（以下、やせ妊婦とする）の体型認識・心理および生活習慣の実態と妊娠中の体重増加との関連を明らかにすることを目的とする。
- (2) 妊婦の体重増加は、食生活をはじめとする生活習慣の結果と言えるが、体型認識・心理とも関連があるので、複合的な分析が必要である。本研究では、やせ妊婦と標準体型妊婦では、体型認識・心理および生活習慣に違いがあるという仮説を立て、妊産褥婦ケアにおける具体的な保健指導内容を検討するものである。

3. 研究の方法

- (1) 文献検討及び理論的枠組みの明確化  
国内外における研究の動向を把握するとともに、文献検討により理論的枠組みを明確にする。
- (2) 調査研究

- ① 研究デザイン  
前向きコホート研究
- ② 対象者  
対象は、民間の第一次医療施設において分娩を希望し妊婦健康診査を受けている健康な妊婦である。  
[選択基準]  
通常の健康診査を目的として第一次医療機関を訪れる妊婦を対象とするが、研究実施施設から対象外者の指示があった方、多胎および未成年の方は除外する。実際の研究対象者は、調査者が研究の主旨を説明し、同意を得られた方のみとする。
- ③ 観察因子（変数）  
[質問紙調査]  
体型認識、生活習慣、健康行動認識、心理（自己効力感尺度、気分の状態尺度、生活の質尺度）とする。  
体型認識、健康行動認識、生活習慣は、各項目を研究者が作成し、尺度化できるものはリッカート法とし、尺度化できないものは、頻度または有無を問うものとする。  
[心理尺度]  
・自己効力感 General Self-Efficacy Scale (GSES)  
GSESは、行動の積極性、失敗に対する不安、能力の社会的位置づけの3下位尺度の計16項目からなる信頼性・妥当性が検証された尺度である。  
・気分の状態 Profile of Mood Status-Brief(日本語版 POMS 短縮版)  
日本語版 POMS 短縮版は、30項目の5段階尺度である。人間の情動を気分や感情、情緒といった主観的側面からアプローチすることを目的に開発された尺度で、過去1週間の「気分の状態」について、「緊張—不安」、「抑うつ—落ち込み」、「怒り—敵意」、「活気」、「疲労」、「混乱」の6下位尺度からなる。  
・生活の質 WHO-QOL26は、WHOが開発した4下位尺度（身体領域、心理領域、社会関係、環境）計26項目からなる信頼性・妥当性が検証された尺度である。  
[属性]  
年齢、職業、婚姻、教育歴、家族形態  
[健康情報]  
身長、非妊時体重、妊娠分娩歴、既往歴、つわり、浮腫、血圧、貧血、尿検査所見、児の体重、胎盤重量、母体体重増加量とする。
- ④ 倫理的配慮  
大学の研究倫理委員会の承認を得て、実施し、研究内容と協力依頼について文書を用いて説明し、書面による同意を得て行う。

⑤ 統計的事項

[帰無仮説]

妊娠中の体重増加不足と妊婦の体型認識・心理および生活習慣とは関連しない。

4. 研究成果

対象者の属性、体型、妊娠中体重増加量、妊娠中の生活習慣、妊娠の計画性、やせ意識、GSES, POMS, QOL26 に関して記述統計をおこなった。統計解析には、SPSS 統計パッケージ Ver. 19.0 を使用した。

1) 対象

2013年2~3月に国内4か所の第一次医療施設の産科外来に健診で通院する妊婦のうち、調査の説明を行い、文書による研究参加への同意が得られた300名に調査を行った。調査票の回答が不十分であった者、転院や合併症を発症した者32名を除外し、268名を分析対象とした。

(1) 対象者の基本属性

対象妊婦の平均年齢は30.6±4.8歳であり、平均妊娠週数は33.4±5.4週であった。無職者が150名(56.0%)と約半数を占め、次いでフルタイム就業が96名(35.8%)、パートタイム就業が22名(8.2%)であった。教育歴は、中学卒業が9名(3.4%)、高校卒業が70名(26.1%)、専門学校・短期大学卒業が91名(34%)、大学卒業・大学院修了が98名(36.6%)であった。分娩歴は初産が144名(53.7%)、経産が124名(48.3%)であった。既婚者が262名(97.8%)で、未婚者が6名(2.2%)であった(表1)。

表1 対象者の基本属性 N=268

	n	%
年齢	≤29	107 39.9
	30≤, ≤39	157 58.6
	40≤	4 1.5 mean30.6(SD±4.8)
妊娠週数	<28weeks	45 16.8
	28weeks≤	223 83.2 mean33.4(SD±5.4)
勤労形態	無職	150 56.0
	パート	22 8.2
	フルタイム	96 35.8
教育歴	中学	9 3.4
	高校	70 26.1
	専門・短大	91 34.0
	大学・大学院	98 36.6
分娩歴	初産	144 53.7
	経産	124 46.3
婚姻	既婚	262 97.8
	未婚	6 2.2

(2) 対象者の体型

対象者268人を非妊娠時のBMIによって、体型を区分した。対象妊婦のうち、BMIが18.5未満のやせ体型妊婦群が16%(43人)、BMIが18.5以上25.0未満のふつうの体型妊婦群が73.9%(198人)、BMIが25.0以上の肥満の体型妊婦群が10.1%(27人)であった(図1)。

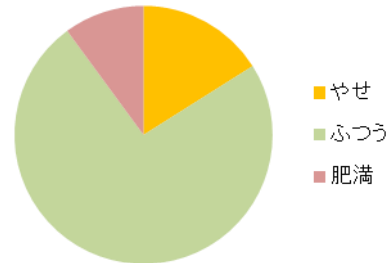


図1 対象者の非妊時体型

(3) 対象者の妊娠中の体重増加量

全妊娠期間を通しての体重増加量を、非妊娠時のBMIによって区分し、比較した。BMI18.5未満のやせ体型妊婦群では+9~12kg、BMI18.5~25.0未満のふつう体型妊婦群では+7~12kg、BMI25.0以上の肥満体型妊婦群では+5~7kgを推奨体重増加量の推奨範囲とし、増加量不足、増加量推奨範囲、増加量過多の3群に分けて比較した。

やせ体型妊婦のうち20.9%(9人)が体重増加不足、60.8%(26人)が推奨体重増加、18.6%(8人)が体重増加過多であった。

ふつう体型妊婦のうち19.1%(18人)が体重増加不足、59.6%(118人)が推奨体重増加、31.3%(62人)が体重増加過多であった。

肥満体型妊婦のうち、29.6%(8人)が体重増加不足、25.9%(7人)が推奨体重増加、44.5%(12人)が体重増加過多であった(図2)。

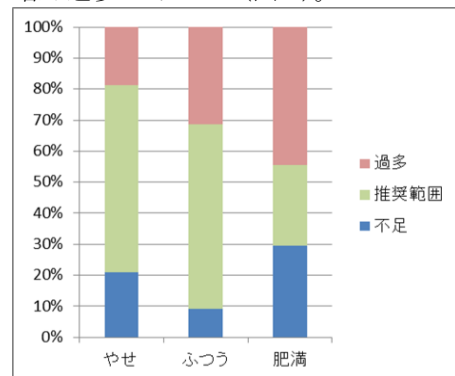


図2 妊娠中体重増加量

(4) 体型認識

妊娠がわかったころに「やせたい」と思っていた妊婦は 57.1% (153 人) で、ダイエットをしていた妊婦は 17.9% (48 人) いた (図 3)。

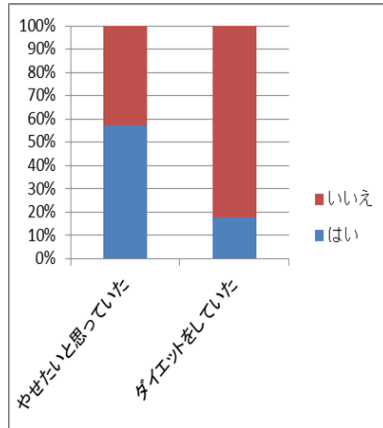


図 3 体型認識

(5) 妊娠中の生活習慣

毎日朝食を食べている妊婦は 72.8% (195 人)、主食・主菜・副菜のそろった食事をしている妊婦は 42.5% (114 人)、妊娠前よりも栄養バランスを考えている妊婦は 37.7% (101 人)、体重を毎日測定している妊婦は 28% (75 人)であった (図 4)。

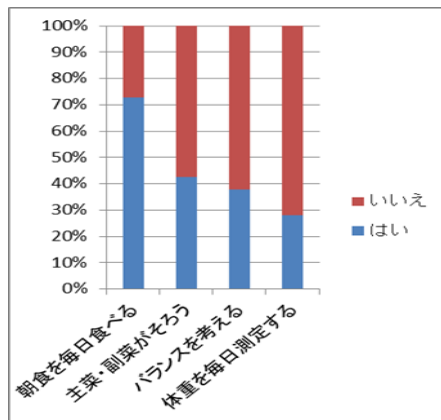


図 4 生活習慣

(6) 対象妊婦の精神状態 Profile of Mood Status-Brief(POMS)

対象妊婦の POMS の得点を標準化得点に換算した。

POMS の平均標準化得点は、緊張不安 49.0 点、抑うつ・落ち込み 49.5 点、怒り・敵意 49.8 点、活気 47.4 点、疲労 50.0 点、混乱 52.2 点であった (図 5)。

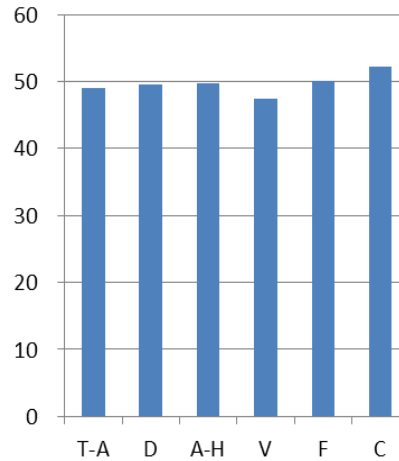


図 5 POMS 標準化得点

(7) 対象妊婦の自己効力感 General Self-Efficacy Scale (GSES)

自己効力化得点を標準化得点換算表を用い、成人女性の標準地からセルフ・エフィカシーの程度を示した。

セルフ・エフィカシーが、非常に低い妊婦は 9.3% (25 人)、低い傾向にある妊婦は 34.0% (91 人)、普通の妊婦は 29.9% (78 人)、高い傾向にある妊婦は 23.9% (64 人)、非常に高い妊婦は 3.7% (10 人)であった (図 6)。

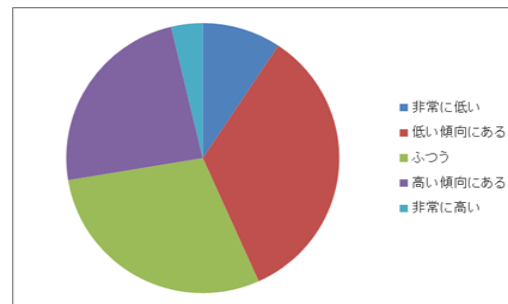


図 6 自己効力感 5 段階評定値

(8) 対象妊婦の QOL

対象妊婦の QOL スコアを、身体的領域・心理的領域・社会的領域・環境領域の 4 領域別に見た平均値を示す。身体的領域スコアの平均点は 3.51 点、心理的領域スコアの平均点は 3.47 点、社会的領域スコアの平均点は 3.66 点、環境領域スコアの平均点は 3.47 点であった (図 7)。

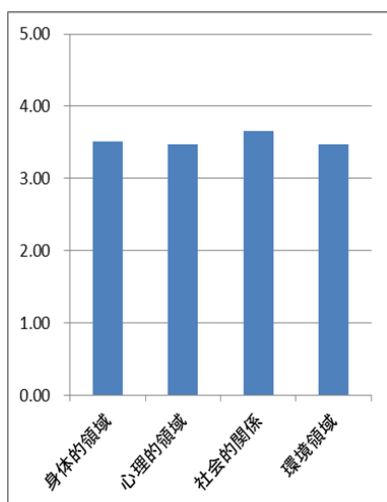


図7 QOLスコア

(9) 今後の展望

やせ妊婦と標準体型妊婦では、体型認識・心理および生活習慣に違いがあるという仮説に基づき、多変量解析を行った結果および、妊産褥婦ケアにおける具体的な保健指導内容についての検討の考察を社会に発信するため学術雑誌に投稿準備中である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文]  
(計0件)

[学会発表]  
(計4件)

- ① Hitomi KOIZUMI, Review of Literature on Factors Affecting the Mental Health of Japanese Mothers with Infant, International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses 14<sup>th</sup> Annual Conference, March, 28, 2012, Grand Hyatt Buckhead, Atlanta, GA, US.
- ② Hitomi KOIZUMI, Effects of Sociak Skill Training for Children in Japan: A Literature Review, International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses 14<sup>th</sup> Annual Conference, March, 28, 2012, Grand Hyatt Buckhead, Atlanta, GA, US.
- ③ 白川早希、小泉仁子、大嶋友香、「やせ」妊婦に関する文献の検討、第52回日本母性衛生学会、平成23年9

- 月29日、国立京都国際会館、京都
- ④ 大嶋友香、小泉仁子、白川早希、勤労が妊娠女性に与える影響についての文献検討、第52回日本母性衛生学会、平成23年9月29日、国立京都国際会館、京都

[図書]  
(計0件)

[産業財産権]  
○出願状況  
(計0件)

○取得状況  
(計0件)

[その他]  
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小泉 仁子 (KOIZUMI, HITOMI)  
筑波大学・医学医療系・准教授  
研究者番号：20292964

(2) 研究分担者

江守 陽子 (EMORI, YOKO)  
筑波大学・医学医療系・教授  
研究者番号：70114337  
村井 文江 (MURAI, FUMIE)  
筑波大学・医学医療系・准教授  
研究者番号：40229943  
山海 知子 (SANKAI, TOMOKO)  
筑波大学・医学医療系・准教授  
研究者番号：10241829  
川野 亜津子 (KAWANO, ASTUKO)  
筑波大学・医学医療系・助教  
研究者番号：10550733  
小谷野 康子 (KOYANO, YASUKO)  
順天堂大学・医学看護学部・准教授  
研究者番号：50307120  
宮川 幸代 (MIYAKAWA, SACHIYO)  
兵庫県立看護大学・看護学部・講師  
研究者番号：20614514

(3) 連携研究者

( )  
なし  
研究者番号：